外国語部会

基礎学力をつけるための指導の工夫

Ⅰ　主題設定の理由

新学習指導要領において，英語学習の目標は「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」とされている。
本部会では，英語を聞いて話し手の意向が理解できる，英語を用いて自分の考えを話すことができる，英語を読んで書き手の意向が理解できる，英語を用いて自分の考えを書くことができる，というコミュニケーション能力を身につけることに迫る為の手だての一つが，基礎学力の定着にあると捉え，　また，個に応じた指導によって基礎学力がより高まると考えた。そして，基礎学力が身に付くことから，さらに個々の関心・意欲が高まり，確かな学力の向上が期待されるものと考え、昨年度に引き続き本主題を設定した。

Ⅱ　研究の概要

（1）全体を３つのグループ（学年）に分け、それぞれのグループにより、研究課題を出し、授業実践などの検証をする。小集団によるグループ体制で研究を進めることでより深い研究がなされるのではないかと考えたためである。
（2）講師を招いての講習会を設定し、理論研究をする。
（3）小学校との連携を深める。

Ⅲ　成果と課題

1　成果

（1）学年別の研究で、より生徒の実態に応じた効果的な指導法について考えることができた。より具体的、効果的に基礎学力を高める研究になった。
（2）昨年に引き続き、統一授業研で、小学校の英語活動の授業を提供していただき、小学校の英語活動の実態が明らかになり、小学校での活動をふまえての、中学校の授業のあり方についても考えることができた。
（3）基礎学力をつけるための方策として、各校で歩調を合わせて取り組むことができよかった。
（4）講師を招いての学習会（ワークショップ）で、音読法について研究を深め、それぞれの学校で実践できた。徐々に教科書を音読できる生徒が増え、英語を学ぶ楽しさを生徒に感じさせることができるようになってきたと思う。

2　課題

（1）研究会の回数が限られているため、研究会の持ち方に工夫が必要である。今年度の研究では課題が深まったとはいえず、継続研究していく必要がある。
（2）小グループの研究体制での成果もあったが、欠席者が多いときに支障をきたすことがあった。
（3）さらに小学校との連携を深めたい。高校との連携も必要になってくる。将来的に英語を話すことが何の抵抗もなくなる日本人の育成につなげるため、さらに研究を進めたい。
（4）授業を見る機会を増やしたい。統一授業研究だけでなく、ビデオを使い、授業分析の機会を増やすことも考えていきたい。
（5）県教研へのレポートの取り組みも、単年ではなく、継続した研究の成果を持って行くことも考えられる。
（6）研究会の回数が限られているので、理論研究は個人で行い、部会研究の中では、ワークショップなどの機会を取り、新しい発想をどんどん取り入れたい。
（7）限られた研究会をもっと有意義に運営するため、年度初めの研究会の持ち方を工夫したい。

3　その他

（1）現在の部会数の中で、理論研究をし、授業実践をすることは不可能。
（2）今年度は、高校の入試制度が変わり、中学校側ではそれへの対応に追われ、理論研究どころではなかった。研究日と入試関連の日程との調整が必要。
（3）基礎学力を高める工夫として、音読法について研究を深めることができた。様々な音読法を知り、実践できた。生徒たちは変化のある繰り返しによって、飽きずに音読に取り組めた。音読から自由会話へと発展させたい。
（4）学習指導要領に示された、個に応じた指導の重視という観点から、小集団や習熟度別授業の実践が見られた点は意味があった。４０人近い大人数を一人で教えることの困難さが浮かび上がった。
（5）年２回の授業研究は、負担にもなるだろうが、やはり勉強になると思う。どの部会においても、同日に授業研を行い、全職員が参加するような働きが必要。学校行事、部活動などがあることは分かるが、授業実践を大事にし、その機会を大切にしていこうという意識を持ちたい。また、せっかく授業を提供してくださる先生に対しての敬意を示すためにも、全職員参加を原則として守っていくべきである。

（部長　水上　かおり）